

■ 特色ある研究の取り組み

研究推進支援拠点 科学研究基盤センター（2018年4月設置）(旧 生命科学総合研究支援センター)

全学の共同教育研究基盤施設として、個々の教員が保持・整備することが困難な高額・大型器機、維持・管理に労力を要する器機、法令に遵守した施設を整備・提供することにより、生命科学に関連する先進的分野の教育研究支援を行うとともに、放射性同位元素、実験動物の適切な管理を行うことにより、法令遵守のもと本学における教育研究の総合的推進を図ることを目的としている。

【支援部門】(人数) ゲノム研究分野・嫌気性菌研究分野・動物実験分野・機器分析分野・RI実験分野(33人:内 教員11人,技術職員5人)
【共同研究講座】(人数) 抗酸化研究部門(5人) (計38人)

研究推進支援拠点 共用推進支援センター（2018年4月設置）

各部局、研究室等に設置されている生命科学系および物性・材料系の研究機器を共用機器として多くの研究者が使用可能になるようなWebシステムの構築を支援すると共に、全学的視野に立ち研究機器の新規導入などを検討することで、岐阜大学の研究基盤の整備を支援することを目的としている。

【支援部門】(人数) (15人:内 研究支援員1人,技術補佐員4人)

生命科学分野拠点 生命の鎖統合研究センター（2016年10月設置）

生命科学の研究拠点として、生命鎖(糖鎖, 核酸, 蛋白質)を中心とする生体関連分子の開発, 生命鎖及びその周縁分子が関わる生命現象の分子基盤の解明, 新たな生理活性分子, 高機能性分子及び分子複合体による疾患の診断及び治療などへの医療応用並びにこれらの統合により新規創薬及び次世代型医療を可能にすることを目指している。

【研究開発部門】(人数) つくる領域部門(12人), ひも解く領域部門(6人), 活かす領域部門(10人) 計28人

環境科学分野拠点 地方創生エネルギーシステム研究センター（2018年4月設置）

再生可能エネルギー利用によるCO₂フリーエネルギーを「つくる」, 「ためる」, 「はこぶ」, 「つかう」革新的コア技術を基盤に, 岐阜県次世代エネルギービジョンの目標達成に向けて, わが国初の取り組みとなる「中山間地域での地産地消型地域エネルギーシステム」(地方創生のぎふモデル)を産官学連携して社会実装を図ります。このぎふモデルを実現するために, 再生可能エネルギー利用の革新的コア技術の要素課題を個別にブレークスルーするだけでなく, ICT/IoT/AIを活用してエネルギーの生産・貯留・流通・消費を最適化するエネルギーシステム統合技術の確立を目指している。

【研究開発分野】(人数) エネルギー創造分野(36人), キャリア・ストレージ分野(13人), 新産業創出分野(15人), エネルギーシステム統合分野(12人) 計76人(延べ)

ものづくり分野研究拠点 地域連携スマート金型技術研究センター（2018年4月設置）

岐阜大学のものづくり分野に関する研究力を, AIとIoT分野の研究力でさらに強化し, スマート金型に代表される生産技術開発, 高信頼性設計技術や3D造形技術の開発および人材育成で, 我が国のあらゆる製造企業の国際競争力向上に貢献することを目的としている。

【研究開発部門】(人数) データ解析技術研究部門(10人), 加工技術研究部門(14人), 設計技術研究部門(11人), 3D造形技術研究部門(6人), 人材育成部門(8人), 地域連携部門(4人) 計53人

ものづくり分野研究拠点 Guコンポジット研究センター（2018年4月設置）

ものづくり分野研究拠点として, 分子の集合体から繊維と樹脂の複合体まで, マルチスケールに複合材料を研究している。物質化学, 生命化学, 機械工学から医学に至る複合領域体制により, テーラードマテリアル&デザインによる少量多品種のものづくりを確立し, 航空機, 自動車などの軽量部材にとどまらず, 人体と関わる複合材料の開発を進めている。また, 東海北陸地区の複合材料3センターのひとつとして, 地域産業との協力を推進し, とくにグローバルな展開を目指している。

【研究開発部門】(人数) バリアフリーマテリアル領域(32人), ヒューマンコンポジット領域(24人), コンポジットリサイクル領域(14人) 計55人

プロジェクト研究センター

学際領域のプロジェクト研究を推進する,特色ある2つのプロジェクト研究センターを設置している。

地域減災研究センター（2015年4月設置）

岐阜県と連携し、岐阜県の自然環境・社会情勢を踏まえた防災・減災に係る実践的な研究及び人材育成を行うことを目的として設置した。特に、防災の現場を熟知した県の防災担当職員と先端的な研究を担う大学教員との共同研究を行うことで、研究成果の実務面への活用を推進する。また、異常気象や地震などによる各種災害、生態系・生物多様性劣化による環境資源の変化、災害医療など、県民の安心・安全に係わる多様な問題に総合的に対処し、研究成果や情報提供などを通じた地域貢献を目指している。

【研究部門】(人数) 環境モニタリング部門(9人),減災技術開発部門(15人),災害医療部門(12人),減災社会推進部門(10人),特任准教授(1人) 計47人

微生物遺伝資源保存センター（2016年4月設置）

病原微生物株の保存センターとして微生物遺伝資源である保有微生物株を維持しており、微生物株の寄託も受け付けている。微生物株の維持管理だけでなく、分譲可能な保有微生物株及び付随する遺伝情報については分譲もおこなう。これらの業務を通して社会のニーズに即した研究及び産業応用に資する微生物遺伝資源の利用促進を図り、これらの業務を通して社会に貢献することを目的としている。

【専門分野】(人数) 系統収集・維持・分譲(7人:内 補佐員4人)

パイロットリサーチセンター

本学の強みとなりうる学際領域の研究を推進する,特色あるパイロットリサーチセンターを設置している。

人工知能研究推進センター（2019年4月設置）

最先端の人工知能, IoT, データ科学の周辺研究を推進するとともに、学部間を横断する研究組織形成の窓口として、新たな人工知能の応用研究を開拓し、本学の強み研究を加速させることを目的とする。そのために、全学の教員、学生に対して人工知能の最新技術に関する勉強会や研究会を開催し、様々な研究分野の研究者がAIを利用できるような環境を構築する。さらに、地域企業との共同研究支援、地域産業への最新技術やAI技術者の供給拠点となることを目指している。

【教育部門】、【研究部門】、【共同研究推進部門】

主な大型研究事業

岐阜大学は,プロジェクト研究センターの他にも,各種大型研究プロジェクトに応募し,採択されている。

文部科学省 革新的イノベーション創出プログラム (COI STREAM) (COI) プログラム

年度	プログラム名	事業協働機関
2013年度～	COI拠点「革新材料による次世代インフラシステムの構築～安全・安心で地球と共存できる数世紀社会の実現～」	金沢工業大学, 岐阜大学, 他2大学, 11機関
柔軟性に富み、長期間に亘って価値を失わない数世紀社会の具現化を図るため、環境性能に優れ、高機能（軽量、長期耐久性、自己修復性、難燃性等）、かつ柔軟な設計が可能で、施工がしやすく、さらには、建設後も移設やリサイクルが容易な「革新材料」を開発する。この革新材料を社会コストの低減と新たな価値の創造が可能な次世代インフラシステム等のアプリケーションに社会実装する。		

科学技術人材育成費補助事業

岐阜大学は,科学技術分野における人材の育成,確保,活躍促進のための事業に応募し,採択されている。

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)

年度	プログラム名	拠点/実施部局等
2015～20年度	地域循環型女性研究者育成・支援プログラム	岐阜大学, 岐阜薬科大学, 岐阜女子大学, アビ株式会社
<p>本事業は、岐阜大学が代表機関となり、共同実施機関である岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アビ株式会社とともに、各々の特徴を活かして連携する取り組みである。共同研究を通じて女性研究者の研究力を強化するとともに、地域内での女性研究者の流動性を高めつつ、安定した活躍の場を確保することによって、地方創生にも繋げるプログラムである。</p> <p>本事業では、連携型共同研究プロジェクト支援によって女性研究者の研究力を強化するとともに、女性限定教員公募等のポジティブ・アクション実施、リーダーシップ育成教育等の実施により、女性研究者比率向上と女性研究者の上位職（教授、准教授・講師）登用を積極的に進めることを目標としている。</p> <p>取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティ研究環境整備のための取り組み ・女性研究者の研究力向上のための取り組み ・女性研究者の上位職への積極登用に向けた取り組み 研究補助員配置制度による支援/メンター制度の体制構築 連携型共同研究プロジェクト支援/人財バンクの利用拡大 企業インターンシップの実施/トップマネージメント・セミナーの開催 		